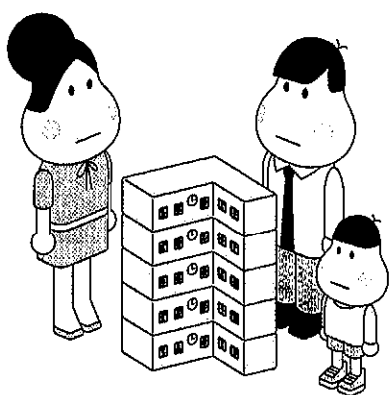


結局どうす 究極の選択

あれこれ考えても結局、結論が出ない。
そんな悩みを解決するヒントを
識者からもらった。



Q.2

家族との 時間を犠牲に してまで働いて稼ぐべき？

教育費と働き方、 どう考えるか

稼ぐ前にお金の 使い方を決める

学費、塾代、習い事の月謝……。教育費はかけ始めたらきりが無い。お金がたかさんかかると、やみくもに稼ぐことを考えるのではなく、まず、使い方を決めることが重要。それを決めていないと本当にいくら必要なのかを判断できない。

教育費を 長期的にとらえる

十数年先の教育費を考え、早いうちから備えておく心安い。給料から自動的に振り込まれるような仕組みで教育費と生活費の口座を分けて管理するのも手。月に1万円くらいの少額であれば、投資信託などの運用で増やすことも選択肢の一つ。

子どもと仕事の優先順位は そのときどきで判断

「仕事優先」「家庭優先」と画一的に決めようとするから難しくなる。その都度、目の前にある仕事の質を見て、優先順位を判断する。

夫婦で価値観を擦り合わせる

いくら相性のいい夫婦でも、教育の価値観がぶつかり合うことは珍しい。教育費の使い道を決めるために、最初にしなくてはならないのは、まず夫婦で腰を落ち着けて話し合うこと。子どもの教育で一番大事にしたい方針を決める。

お金のできる限界を知る

お金は教育を受けるプロセスのために必要だが、お金をかけたからといって、かけただけの成果が出るものではない。何でもお金で解決しようとせず、特に子どもが小学生のうちは親が子どもに積極的にかわり、一緒に時間を過ごすことが大事。

子どもとの時間を 減らすのは本末転倒。 稼ぐ前にお金の使い方を 決めよう



まずは夫婦で教育への 価値観の擦り合わせを

子どもの教育費は青天井。かけようと思えば際限がない。「子どものためにもっと稼がなくてはと焦るかもしれませんが、稼ぐことを考える前に、何にお金をかけるかを決めたほうがいいでしょう」とシブサワ・アンド・カンパニー代表取締役の渋澤健さんは言う。

どんな人でも教育については一家言ある。夫婦で価値観が違うケースも多い。そのため、「まず教育に關する考え方を夫婦で話し合うことが必要です。実はこれが一番大変な作業なのですが、擦り合わせることで初めて、教育費のプライオリティが決まります」。

そのうえで、お金が足りないならどうするかと考える。ただ皮肉なことに、子どものために稼ごうと一生懸命働けば、子どもと一緒に過ごす時間は減ってしまう。

渋澤さんも、3人の男の子の父親。週末に仕事絡みの会合の誘いも受けるが、できる限り家庭を優先するようにしている。「小学生ぐらいまでは、親が積極的に子どもにかかわっていくことが大事。お金には代えられません」。平日も週に1、2日は早く帰宅して夕

食を共にし、朝は必ず子どもたちを起こしてから出かけるという。「お金は必要なものだけど、お金でできることと、できないことがあると考えるべき」と渋澤さん。

また、限られた家計の中で、教育費の割合をどう考えるか。「家庭の経費の中で、教育費だけが突出している、アンバランスかもしれない。子どもは『結果を出さなければ』と、大変なプレッシャーを感じるかもしれません」と渋澤さん。家庭の「資本」と「期待」を小さな背中にも過度に集中させた結果、受験に失敗して、自信を失わせてしまったなら元も子もない。「教育とお金の話は、どうしても親のエゴが絡むので冷静に考えるのが難しい。お金は一つの尺度にすぎないということを、常に忘れてはいけないと思います」。



シブサワ・アンド・カンパニー
代表取締役
渋澤 健さん

外資系証券会社勤務などを経て、オルタナティブ投資専門の投資コンサルタント会社を創業。渋澤栄一の5代目子孫で、著書に「巨人・渋澤栄一の「富を築く100の教え」(講談社)がある。4歳、5歳、7歳の息子を持つ父親。